



最近テレビなどで取り上げられ、認知度も上がっている「30・10運動」。松本市発祥のこの運動は、会食や宴会等では、乾杯後の30分間とお開きの10分間は席を立たずに料理を楽

しんで、食べ残しを減らす運動です。又、家庭では毎月10日はもったいないクッキングデーとして野菜の茎や皮も料理して食べよう、30日は冷蔵庫クリーンアップデーとして文字通り冷蔵庫の中を見回して、期限のあるものや傷み易いものを積極的に使い、捨てる食品を減ら

そうという内容の運動です。ご存知のように日本は食料の大半を輸入に頼る一方で、食べられるけれど捨てられている食品ロスは年間642万トン。「もったいない」です。世界の共通語にもなった「もったいない」をもう少しだけ生活に取り入れてみませんか。

6月24日東部公民館歴史講座で餌差町提供の2本のビデオが上映されました。発車の際、車掌が紐を引いて「チンチン」とベルを鳴らし、運転手に知らせることから「チンチン電車」と呼ばれて親しまれた浅間線は、大正13年から40年間走り、昭和39年に惜しまれつつ廃止となりました。「さよならチンチン電車」はその



横田駅に入る電車

の廃止の際にSBCで制作された番組です。浅間線は、昭和30年頃までは、すし詰めの乗客があり、たびたび臨時増便された主要な交通機関でした。しかし、車社会の発展とともに乗客は減り「シジュウカラ電車」と呼ばれ、交通の障害と見做されるようになりました。その頃には傷みも目立ち、整備にも大変苦労したようです。玄向寺でのイチゴ狩り、県営野球場での高校野球、県営運動場での花見、美鈴湖でのス



町内総出の復旧作業 女性も頑張る

ケート等々、多くの思い出を残してくれました。懐かしさと共に今後のまちづくりを考えさせる一編でした。「餌差町水害」は、昭和34年台風7号の水害を餌差町の大沢さんが8ミリフィルムで撮影したもので、当日は同町大槻さんの解説がありました。この水害では、清水橋に流木が引つかかったため女鳥羽川の水流れ込み、餌差町は泥海と化しました。床上まで泥水に浸かった家が多く、大型車が入れなかったこともあり復旧作業は大変苦労したことが、映像からも見て取れます。町民が一致団結して復旧にあたる様子も収録されており、特に女性が大変な状況の中でも明るく活躍しているのが印象的でした。



東部地区歴史講座
懐かしの貴重映像
—さよならチンチン電車・餌差町水害—

我がまち自慢

● 南上横田町会 土屋 晃一さん

石の景色と模様に魅了 — 安心づくりに安協35年

土屋晃一さんは、南上横田町の副会長であるとともに交通安全協会役員歴は35年。健康で生きがいある暮らし方に加え、安心な街づくりにも活躍されています。そんな土屋さんに健康と生きがいについてお話を伺いました。

—石が好きと聞いていますが。

50歳頃から石の景色や模様に魅了され、年10数回姫川や楠川、梓川等で採石しています。その楽しみは、メノウ・ヒスイ等を採石する事、その原石を丁寧に磨くと全く違う石に変化する事、そして見て眺めることで心が癒されることです。家に置いておくだけでなく、東部ひろばまつりにも出展していますので、是非ご覧ください。

—石の他に沢山の趣味がありますね。

20歳を過ぎてから社交ダンスを始め、県選抜舞踊選手権大会等に競技選手として出場しました。また、勤労者福祉センターや郵便局等でサークルをつくり指導もしました。山菜やきのこ狩りも大好き。



お気に入りの石とともに

自然と触れ合うと気持ちさわやかにになります。東部卓球クラブにも所属し、週2回練習して親睦と健康づくりにも励んでいます。—安協でご苦労されていますね。

年30回以上の出勤がありますが、安心して健康で楽しく過ごせる街づくりのため、少しでもお役に立てればと思い活動させていただいています。

土屋さんの健康の源である行動と、それを継続していくその姿に感心しました。また、「何かしらの趣味や楽しみで行動すれば、人との繋がりができ、健康で生きがいのある生活ができるはず。まずは挑戦してみたら。」とも語っておられました。

